

(ウ) エコロジーサービス班

① ちゅうらさき分教室における「エコロジーサービス班」の捉え方

エコロジーサービス班は、センター分教室の生徒全員が在籍する職業班である。各学年2単位設定されており、教室内外の清掃や教育センター内の各棟の清掃を行いながら、清掃業への就労を見据えた清掃技術及び就労に必要な力の習得をめざした教育活動を行っている。また、清掃業をエッセンシャルワーカーとして意識させることで、活動に対する意欲向上と卒業後の選択肢の一つとなるように職員間で共通認識を図りながら指導を行っている。

② 授業実践計画

1 学期	①日々の清掃活動の振り返り・改善 ②講師を招いての実演会 ③教室内及び周辺の清掃
2 学期	①教育センター本館及び各教科棟の清掃
3 学期	②教育機関以外への清掃活動（児童デイ・介護施設等）

③ 授業を行う際のポイント

[就労意識の向上]

1. 清掃活動を通して、人のために働くことの喜びややりがいを感じる機会を設けることで、就労意欲の向上を図る。
2. 清掃業は、エッセンシャルワーカーであることを意識させ、活動への意欲を向上させる。
3. 外部講師を招き、講習会を開催し、就労意識と清掃業への意識付けを行う。

[主体性の向上]

1. 学期ごとに班長・副班長を任命し、班長を中心に各種活動を行うことで、生徒主体の活動を促す。
2. 学校外からの清掃依頼を受けることで、初対面の人と関わる機会を多く設け、コミュニケーション能力を身につける。
3. 技能検定等の習得した技術を披露する機会を設けることで、日頃の活動への意欲向上を図る。
4. リトルティーチャーを設定し、生徒同士で教え合い、協力する雰囲気作りをすることで、より生徒主体の活動につなげる。

[清掃技術の向上]

1. 日頃の清掃活動を振り返り、改善点を見出し、質の高い清掃を実践し習慣化する
2. 外部講師を招き、実演会を開催し、清掃業としての清掃技術を学ぶ。
3. 学校外からの清掃依頼を受け、依頼内容に応じた様々な清掃活動を行うことで、日々の清掃活動では体験できない清掃を行い、実践経験を積む。
4. PDCA サイクルで継続的な改善を行い、より質の高い活動を行う。

④ 実践内容

① 「日々の清掃活動における留意事項を整理し、掲示物を作成」



② 「外部講師（(株) 沖縄ビル・メンテナンス）を招いて行った実演会の様子」



③ 「SDGs の視点を踏まえ、県総合運動公園内の池清掃を行った様子」



④ 「授業で培った清掃技術をもって第 22 回沖縄県障害者技能競技大会に出場した様子」



⑤「教育センター内の各棟の清掃をしている様子」

(主な清掃活動：掃き掃除・モップがけ・窓清掃・タイル磨き・花壇整備等)



⑤ 成果

[就労意識の向上]

清掃会社の職員を外部講師として招き、講習会を実施したことで清掃を職業選択の一つとして意識させることができた。各学年から清掃業へ現場実習を行った生徒もおり、引き続き職業としての清掃活動を行っていききたい。また、すべての職業に必要とされる力（報告・連絡・相談など）について全職員で共通認識を図りながら、教科横断的に指導を行うことができた。成果として、挨拶をはじめ報告・連絡・相談等の働くうえで必要となる力が身に付きつつあると考える。

[主体性の向上]

主体性の向上を目的に上記（③ 授業を行う際のポイント）の取り組みを行ったことで、年度当初、授業に対して受け身であった生徒たちが主体的に取り組む姿が見られるようになった。特に、作業を始める前の役割分担を行う際には、班長・副班長を中心に生徒のみで話し合いを行うことができるようになってきている。また、3学年においては、依頼を受けた作業が終了すると各人で次の清掃場所を模索し、取り組むことが習慣化しており、集団として主体性の向上が見られる。

[清掃技術の向上]

清掃業としてのモップ・窓拭き等の作業技術の定着は、まだまだ課題が見られるものの、生徒各自が丁寧に作業を行う意識は定着しつつあると考える。

⑥ 課題

[就労意識の向上]

一学期に外部講師を招いて講習会を行ったことで、清掃を職業として意識させることができ、前期現場実習で清掃業に挑戦する生徒や技能競技大会に出場する生徒がいたものの、2学期以降意欲の低下が多少見られた。そのため、学期ごとに講師を招き講習会を開催することで就労意識の向上と清掃業を職業選択の一つとして、意識できるように取り組んでいきたい。

[主体性の向上]

今年度の取り組みを継続しつつ、作業の開始・終了時のミーティングを輪番性にすることで全生徒がミーティングの司会をする機会を設け、より主体性の向上に取り組んでいきたい。

[清掃技術の向上]

モップ・窓ふき等の清掃業としての技術を年度当初の講習会を通して、学ぶ機会を設けるとともに、日頃の清掃活動や職業での授業を通して、清掃業としての手順を習得させていきたい。そのために、定期的に実技試験・筆記試験を実施し、点数に応じて認定級を設けることで、技術習得に対する意欲の向上と、清掃技術の定着をめざしていきたい。